

あなたの街の 優良石材店

昭和44年に愛知県岡崎市で創業した(有)上野石材。平成17年に、現代表・上野雄一さんの発案によって商号を「上野石材店」から「有限会社上野石材」と法人に改めた。現在は墓石の見積もり作成から図面設計・製作・施工まで、全て上野さん自身が責任を持って行なっている。今回は、そんな上野さんに会社の歩みや仕事上でのこだわりなどを伺った。



上野 雄一(うへの ゆういち)さん
昭和45年10月14日生まれ。天秤座。一級石材施工技能士(石材加工作業)、伝統工芸士、職業訓練指導員、全国石製品協同組合認定「石匠位」。岡崎石工品伝統工芸士の会長や技能五輪・技能グランプリの審査員、岡崎技術工學院の講師などを兼任するほか、アニメ風のキャラクターや恐竜など、石を活かした様々なモニュメントの製作・展示でも注目を集めている。

常にお客様の立場・心に寄り添っていききたい

(有)上野石材・石のみやび (愛知県岡崎市)

【(有)上野石材ができること】
墓石の設計・デザイン・施工・販売、墓石のクリーニング・リフォーム、墓地の開発・墓園管理、石製品の製造・販売(灯籠・仏像・モニュメント、ベツト慰霊碑等)、建築石材関連(張り石・石積み工事等)、造園用石材全般など。愛知・名古屋、岡崎から中部地区全般的エリアに対応しています。

【取材メモ】

20代のときに父を亡くし、それからは母と二人三脚で会社を守ってきた上野さん。現在は自社で墓石を加工することも多く、そういった場合は上野さん自身がほぼすべての工程を担当。きちんと責任を持って仕事にあたったので、そのあたりがお客様にとっての大きな安心感につながっているのではないのでしょうか。また、同じ石材業者から石の加工の依頼を受けるということは、それだけ同社の技術が信頼されている証ともいえるでしょう。上野さんは人あたりがよく、常にお客さんの立場になって考えてくれる優しい性格の持ち主。「お墓をつくりたいけど、どういふ風にすればいいのかわからない」といった方は、ぜひ上野さんにご相談してみたいかがでしょうか。

—はじめに御社の歴史を教えてください。

上野 創業は昭和44年。先代である父の上野松雄が始めた石屋です。父はもともと熊本県天草市の出身なのですが、集団就職というかたちで出てきてまして、岡崎市の石屋さんで石工になるための修業をしたんです。そして10年ほど下積みを重ねた後、独立して今の会社を創業しました。

—2代目を継いで、どのような会社を目指しましたか？

上野 うちはもともと灯籠の加工を専門とする石屋でしたので、最初は灯籠石屋として続けていくつもりでした。修業をしていた最後のほうも、大抵の灯籠ならつくれるくらいのレベルになっていましたからね。それで平成10年くらいまでは灯籠やモニュメントなど、その当時は国内加工も多かったので公園用モニュメントや橋の親柱などを中心にやっていました。

—会社やご自身について、ほかにアピールできる特徴は何かありますか？

上野 工場の設備に関しては、かなり力を入れていっているほうだと思います。主なものだけでも、自動研磨機や手動研磨機、大型切削機(大口径ブレード)、中型切削機(中口径ブレード)、スーパーマルチ切削機(マルチオフカット)、手動型切削機(オフカット)などがあります。さらに今後は、五輪塔の擬宝珠などをつくることのできる丸物加工の機械も導入します。工場自体も2年前に増設したばかりで、同業者から加工の仕事依頼されることも少なくありません。

また、岡崎産地の若手石工有志で結成した「岡崎Masons(メインズ)」など、同業者の集まりにも積極的に参加するようにしています。そこで情報交換をしたり、刺激を与え合うことで、お互いに高め合っています。あとは伝統工芸士の会長や、技能五輪・技能グランプリの審査員なども、自分のことだけでなく、こうした業界全体を元気にしていく取り組みにも貢献していきたいと考えています。

—上野さんにとって、お墓の良さとは何ですか？

上野 やっぱりお墓があると、「い

先祖さまのところにお参りに行く」という気持ちになりますよね。私自身も、父が草葉の陰から応援してくれているおかげで今があると、思っていますから、月に一度はお墓参りするようになっています。あと、実は母の父親も九州(天草市)で石屋さんをやっていたんです。だから家族や母と九州に里帰りするときも、まず最初に行くのはお墓参り。子どもにも「お前がここにいるのは、ご先祖さまがいたからなんだよ」とお墓参りするたびに教えるようにしています。

とくに最近では、心から「お墓って大事だな」と思うようになりまして。ですから墓じまいなどを考えているお客様にも、「一度、息子さんや娘さんと話し合ってみては？」と提案しています。そういう方々は「子どもたちに迷惑をかけたくない」という想いから、墓じまいを検討されているケースが大半。しかし実際に息子さんなどの声を聞いてみると、「お墓の面倒はみるつもりだった」という話になることも多いんです。

—今後の目標を聞かせてください。

上野 私は古いタイプの人間なのかもしれないですが、これからも原石を使って何かをつくり続ける石屋でありたいと思っています。自分にとって工場をやめることは、半分石屋をやめるようなもの。それに石都といわれる岡崎の石屋業界で育ていただいた人間として、石のまちである「岡崎」という存在をもっと全国に知らしめていくのも目標です。その上で、いつか「岡崎に上野石材あり！」といわれるくらいになれたらうれしいですね。

私自身は、実をいうと石屋さんを継ぐつもりはなかったんです。それで高校卒業後は名古屋にある運送会社に就職して、営業や経理などといった事務系の仕事に就いていました。しかし就職して1年ほど経った頃に、父が突然の病で他界。それが平成元年のことでした。

そうした経緯もあって、最初はとうしようか迷いました。ただ、工場には設備もそろっていましたが、機械は使わないと、どんどん傷んでしまいます。そこで、最初は親戚の石材店で修業させていただくことになったんです。修業期間は3年間。親戚だからといって甘やかされず、逆にとても厳しい親方のもとで、とことん鍛えられました。今思い返せば、あの濃密な期間が石屋としての自分の基礎をつくってくれたんだと思っています。

今の弊社のウリは、まず第一に自社加工・自社施工ができることです。国産の石を使う場合は、最初に石を吟味するところから自分自身で行なっています。そして施工現場でも、決して人任せにはしていません。自ら陣頭指揮をとって、職人と一緒に汗をかきながらつくっていく。そういうつくづくることに対するこだわりは、うちの会社が一番の誇りにすべき部分だと思っています。